

## 1960年代 吉永小百合と私たちの青春時代

1960年代を代表する銀幕のスター（女優）といえば、いろんな顔が思い浮かびます。ただ、今でも主演として活躍している女優となると、まず最初に吉永小百合さん（1945年3月生、以下小百合）が挙げられます。

1945年生では他に富司（藤）純子、松原智恵子、宮本信子さんたちがいますが、現役かというのをかき上げます。もう少し年配になると1941年生では倍賞千恵子、岩下志麻、三田佳子さんたちがいますが、最近スクリーンでお目にかかることは少ないです。

小百合ファンは昔から、「サユリスト」として根強い人気を誇っていますが、「サユリスト」の核は我々団塊より少し上の世代ではないでしょうか。私も高校時代、小百合主演映画を観ることは少なかったです。（当時、上田には日活映画上映館の中劇がありました）

今月6日、映画デビュー65年を記念して、『吉永小百合 青春時代写真集』（文藝春秋社）が発行され、話題となっています。（写真）

私も買い求めましたが、小百合が1960年、15歳で日活のスクリーンデビューから約15年間の眩しい映像満載の写真集は見応え十分です。

記録によると、小百合の映画デビューは1959年、松竹の『朝を呼ぶ口笛』です。

翌1960年、日活の契約俳優となって、青春映画での活躍が始まります。

日活での出演作品は79本になるとのことです。

1962年、17歳にして、『キューポラのある街』でブルーリボン賞主演女優賞を受賞、確固たるスターの座を手に入れました。

因みに「キューポラ」というのは溶銑炉のことで鋳物の町、川口を舞台にした映画でした。筆者（上原）が大学時代の仲間とだべっている時、「小百合は『キューポラ・・・』以後、それを超える作品は無いので引退した方が良い」と言ったところ、数名の友人から「それは無いぞ。発言を撤回しろ！」と糾弾？を受けました。

たまたま同時代、在籍していた大学が小百合と同じ早稲田だったこともあって、同窓の「サユリスト」たちは意気軒昂でした。

小百合はこれまでに123本の映画に出演していて、そのほとんどが主演です。

私は映画館で鑑賞した映画は全て記録していますが、小百合映画は33本、観ています。

5月25日から約1ヶ月、名画座の神保町シアターで、小百合の映画女優デビュー65年を記念して、「1960年代－吉永小百合と私たちの青春」を特集中で、小百合映画が20本上映され、私も6月2日、足を運びました。

当日上映の『美しい暦』（1963年、森永健次郎監督、石坂洋次郎原作）は松本周辺でロケが行われ、松本城や松本電気鉄道、松本神社、松商学園（古いキャンパス）、中綱湖（大町）などを画面で楽しむことができました。

劇中、小百合がTVで後樂園球場での巨人対国鉄戦のしているシーンでは、長嶋がピッチャー金田から三振を獲られるシーンが出てきて、思わずニヤリとしてしまいました。

あるデビュー65年記念上映会で、ゲストとして呼ばれた小百合に次回作（124作目）の予定について質問がなされましたが、「予定はあるが今は言えない」とのことで、まだまだやる気十分のようです。

昭和（同世代）を代表する偉大なるスター、吉永小百合さんがこれからも元気で活躍されることを願いながら写真集と昔の映画を楽しんでいます。



「吉永小百合 青春時代写真集」



©日活  
監督=森永健次郎  
原作=石坂洋次郎  
美しい暦

デジタル



「吉永小百合と私たちの青春」（神保町シアターのポスター）

(2024年6月6日記)

以上